

各 位

会 社 名：ウインテスト株式会社
(コード：6721 東証マザーズ)
代表者名：代表取締役社長 奈良 彰治
問合せ先：常務取締役 岡本 隆
(TEL：045-317-7888)

平成25年7月期個別業績の前年実績との差異に関するお知らせ

平成25年7月期（平成24年8月1日～平成25年7月31日）において、前期実績と本日公表の実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。

記

前期実績と当期実績の差異

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	673	-101	-104	-101	-2,062.56
今期実績 (B)	135	-387	-384	-385	-7,827.39
差異額 (B-A)	-538	-286	-280	-284	-5,764.83
増減率 (%)	-79.9%	-	-	-	-

差異が生じた理由

当事業年度の半導体並びにフラットパネルディスプレイ業界におきましては、スマートフォンやタブレット端末関連デバイスの需要は堅調に推移しましたが、その他のデジタル家電関連デバイス市場は低調に推移し、特にこの影響が大きかった国内メーカーでは関連事業の見直しや再編とともに、生産拠点の集約や閉鎖、国外への移転等が推し進められました。これらの顧客動向は、当社の既存ならびに商談進行中の新顧客による設備投資の中止や見送りにつながり、当事業年度における事業環境は極めて厳しい状況で推移いたしました。

このような環境のなか、当社は顧客ニーズに対応した製品の拡充に務めるとともに、営業担当とエンジニアが一体化した営業推進体制による積極的な営業活動を展開し、新たな海外顧客より受注を獲得するなど一定の成果を上げました。また、損益面では部品調達や開発工程の効率化による原価の低減や、希望退職者を募集するなど、過去最低レベルの経費水準を目指した固定費の削減に努め、営業損益の改善に努めました。しかしながら、売上高の低迷や棚卸資産評価損62百万円の計上などにより、上記の通り損失を計上することとなりました。

なお、当事業年度の業績は極めて厳しいものとなりましたが、下期における新規受注及び新規引合いの増加により、当事業年度末の累計受注高は前年同期比19.0%増、同受注残高は前年同期比1,131.7%増の実績となっております。

なお、詳細につきましては本日発表の平成25年7月期決算短信をご覧ください。

以 上